

令和7年台風第15号災害に対する 静岡県支部の対応

9月5日、台風第15号の影響で非常に激しい雨が降り
続くと同時に竜巻等の突風によって、県内各所で多くの
被害が発生しました。

静岡県支部では各市町の被害状況を確認するとともに、
特に被害が大きかった牧之原市及び吉田町からの要請
を受け、発災当日にタオルセットや下着セット等の災害
救援品を届けました。

また、9月22日から10月17日ま
での間、こころのケア要員を牧
之原市に派遣し、被災者や行
政職員等の心理的支援を行いま
した。



フォローは
こちらから



X(旧Twitter)では、ボランティア、青少年赤十字、
講習、救護活動などの情報を発信しています。

PRESENT!

ショルダーポーチ 20個プレゼント!

以下を明記の上、WEB・メール・郵送でご応募ください。

- ①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③年齢 ④赤十字しずおかvol.138のご意見・ご感想
⑤赤十字しずおかで、今後取り上げてほしい情報

※回覧でご覧いただいた方には、本号を郵送します。ご希望の方は①②を明記の上、[vol.138希望]とお書きください。
なお、プレゼントのご応募と同時に申し込みいただく場合は、①～⑤を明記の上、応募締切日必着をお願いします。

WEB



応募方法

メール



koho@shizuoka.jrc.or.jp

郵送

〒420-0853
静岡市葵区追手町44-17
日本赤十字社
静岡県支部 組織振興課



ご応募お待ちしております!

応募締切

令和8年2月27日(金) 必着

当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※収集した個人情報につきましては、個人情報保護法及び日本赤十字社の保有する個人情報保護規程に則り取り扱います。

赤十字 しずおか

Japanese Red Cross Society SHIZUOKA

2025 vol.138



日本赤十字社

回覧

赤十字は、動いてる!



家族や身近な人が、突然目の前で倒れたり、けがをした時、
あなたは動けますか?

赤十字は、いのちと健康を守る知識と技術を普及しています。

救助の
事例



目の前で人が倒れたとき、
ためらわず行動すること。
その知識と勇気があれば、
大切な人の命が救えます。

あなたにも、 救えるいのちがある。

きっかけは、 親子で立ち寄った「AED体験」

2025年9月13日、雨の土曜日。
萌花さんと3歳の息子・漸（ぜん）くんは、何気なく
訪れたショッピングモールで、静岡県支部のAED体
験イベントに出会った。
「漸くんはAEDの使い方を教わりましたが、息子には
まだ難しいと感じました」と萌花さん。

帰宅後、人形を使って胸骨圧迫のまねをする漸くん
を見て、「この子にできるこ
とは何だろう？」と考えた萌
花さん。出した答えは、「助
けを呼ぶこと」。それから、
倒れたふりをして「助けて！
」と叫び、助けを呼ぶ練習を
親子で繰り返した。



散歩中の突然の心肺停止。 「その時」は本当にやってきた

それから2週間後の9月25日の
夕方。

夫の大（だい）さんが漸くんと
散歩に出かけた。その途中、
大さんは突然心肺停止に陥
り、前のめりに倒れた。

「倒れた前後の記憶はありません。

後から聞いて、自分がどれほど危険だったかを知りました」と大さん。その時、真っ先に声を上げたのは、
漸くんだった。

「パパ、転んじゃった！」

その声に気づいた老夫婦が「誰か助けて！」と叫び、
近所の人たちが次々と駆けつけた。近くの女性が看護
学生で、すぐに胸骨圧迫を開始。さらに近くにいた看護
師も加わり、救急車が到着するまで交替で胸骨



災害や事故を他人事だと思いませんか。
けれど、いざという時に行動できるか
どうかで、救えるいのちがあります。
これは、実際にあなたの街で
起きた出来事です。

©2025年9月25日に実際に起きた出来事を、
当事者への取材をもとに構成しました。



体験を通して感じたことや、万が一の時に備える講習の大切さを
広く伝えたいと話す大さんと、奥様の萌花さん、息子の漸くん

圧迫を続けた。救急車でAEDが使われ、心拍が再開。
大さんの意識が戻ったのは4日後だった。
「心室細動と診断されました。迅速に胸骨圧迫をして
もらえたおかげで、今こうして元気でいられる。本当
に感謝の気持ちでいっぱいです」と振り返る。

「知っていた」ことが、 いのちをつなぐ力に

異変を知らせたのは、漸くんの
“助けを呼ぶ”声。そして、そ
の声に応じて行動した人たちが
いた。

「人通りの少ない場所でしたが、漸くんが大きな声を出してくれ
たから周りが動いてくれた。いくつもの偶然が重なって、命が
つながったと思います」と萌花さん。大さんは、体調が回復し
たら救急法の講習を受けたいそう。「目の前で誰かが倒れたとき
に臆せず行動できるよう、ひとりでも多くの方が受講して知識
と勇気を身につけてほしいですね」



身近な人を救うため、とっさの手当や日常生活での
事故防止など、健康安全に関する
知識と技術を普及しています。

action

赤十字救急法競技会の開催

静岡県支部は、毎年救急法競技会を開催しています。

本競技会は、日常生活における安全意識を高め、事故や災害
時にお互い助け合いながら活動するための知識と技術を向上
させることを目的とするとともに、赤十字活動への理解を深
め、その活動の担い手となるボランティア相互の連携を強化
する場としています。

第13回目となった今年度は、選手やスタッフなど400名が参
加し、60チームが救急法の技術を競い合いました。



三角巾によるきずの手当を行う奉仕団員



救命応急手当をする専門学生



心肺蘇生競技を行う高校生



一般の部 総合優勝 浜松医療学院 Ladies

action

赤十字講習の開催

健康で安全な生活を送るための知識と技術を身につけること
を目的とした4つの赤十字講習を普及するため、多くのボラン
ティア指導員と市町の協力を得ながら県内各地で講習を開催
しています。

救急法



胸骨圧迫やAEDの使い方、けがの手当などの
知識と技術を学びます。

水上安全法



水の事故からいのちを守るため、泳ぎの基本と
自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手
当の方法などの知識と技術を学びます。

幼児安全法



子どもを大切に育てるために、乳幼児期に起こりやす
い事故の予防とその手当、かかりやすい病気（発熱・
けいれん等）の手当に関する知識と技術を学びます。

健康生活支援講習



誰もが迎える高齢期を健やかに生きるために
必要な、健康増進の知識や高齢者の支援・自
立に向けた生活の仕方や工夫を学びます。

講習の詳しい内容についてはこちら

